

重点目標	「生きる力」を育てる教育課程及び授業の改善・実施		P
現 状	学習指導要領に示す各教科等で育成を目指す資質・能力を確実に育むために本校で作成し今年度から運用する「標準年間指導計画(案)」と令和5年度より運用を始めた児童生徒の学びの連続性を保障するための「観点別学習評価表(学びの履歴シート)」をツールとして「授業づくりの仕組み」を構築し、併せて、児童生徒の「参加」と「学び」を促す効果的な指導方法「能代スタンダード」の充実を図り、授業改善の要点を見いだすことを目指している。		
具体的な目標	「標準年間指導計画(案)」に基づく12年間を見通した教育課程の改善と実施		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・週時程の改善(教科の指導の充実) ・「標準年間指導計画(案)」の活用による年間指導計画の作成 ・日々の授業を対象とした授業研究の実施 ・「標準年間指導計画(案)」及び年間指導計画の妥当性の検証・改善 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通して、職員が各教科別グループに分かれ、各年次研修者の授業を中心に年間指導計画、観点別学習評価表に基づいた授業研究を行った。 ・研究発表会を開催し、上記授業研究について、3つの実践発表、10のポスター発表を行った。オンデマンド配信も行い、全国の参加者から感想、意見をいただいた。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・職員年度末評価の「『生きる力』を育てる教育課程及び授業の改善・実施」について、95.5%が肯定的評価、保護者の評価の「日々の授業に主体的に参加していると感じるか」の項目で95.2%が肯定的評価となっている。 		
自己評価	(評価) A	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> ・週時程の改善、「標準年間指導計画(案)」をはじめ授業づくりに係る各ツールの活用により、授業づくりの仕組みが整理され、教科の見方・考え方を働かせた「深い学び」につながる授業研究に取り組むことができた。 	C
↑ 評価基準 ↓		A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力」について、小学部から指導されていることが大切である。継続してほしい。 ・教師は、各授業でめあてをしっかりと示し、児童生徒が理解できているか見取っている点が良い。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も研究を継続し、「授業づくりの仕組み」を更に改善するとともに、授業実践の蓄積と共有を図っていく。 ・これまでの実践から得た成果と課題をもとに、内容や時数を整理し、「標準年間指導計画(案)」の正案化を目指す。 		